

坂本仁教授・略歴及び主要研究業績

一 出生

一九四七年五月一六日 東京都中野区宮園町に生まれる。

二 学歴

一九六三年四月 埼玉県立松山高等学校入学

一九六六年三月 埼玉県立松山高等学校卒業

一九六六年四月 早稲田大学教育学部英語英文学科入学

一九七〇年三月 同上卒業

一九七〇年四月 早稲田大学（教育学）英語英文学専攻

科入学

一九七一年三月 同上修了

一九七一年四月 早稲田大学大学院文学研究科英文学専攻

攻修士課程入学

一九七五年三月 同上修了

一九八三年四月～八四年三月 米国カリフォルニア大学

バークレー校客員研究員

二〇〇七年四月～〇八年三月 米国カリフォルニア大学

バークレー校客員研究員

三 職歴

一九七七年四月 立正大学教養部専任講師

一九八二年四月 立正大学教養部助教授

一九九〇年四月 立正大学教養部教授

一九九五年四月 立正大学法学部教授（教養部改組に伴

い法学部分属）

（非常勤講師歴等は、省略）

四 所属学会

日本文学会、日本イギリス・ロマン派学会、早稲田

大学英文学会、早稲田大学英語英文学会

五 主要研究業績

(1) 単著

『ゴールディング作品研究』（鳳書房、二〇〇三年）

『裏返しのできない砂時計』（青弓社、一九九三年）

(2) 共編著

『映画で読み解く現代アメリカ』『グアンタナモをめ

ぐる攻防』（明石書店、二〇一五年）

『9・11とアメリカ』『帰還後の悪夢』（鳳書房、二〇〇八年）

『言語表現と創造』『日陰者ジュード』の視界』（鳳書房、二〇〇五年）

『マージナリア』『伝説への挑戦——ウィリアム・ゴールディングの『蠅の神様』』（音羽書房鶴見書店、一九九九年）

(3) 共訳書

D・J・シャルクロス／D・A・シスク／斎藤勇監訳『直感』（日本教文社、一九九七年）

ベンチヨン・ユー／池田雅之監訳『神々の猿』（恒文社、一九九二年）

(4) 論文

『アメリカの疾病・医療・保険をめぐる映画』（立正法学論集）第五十巻一号、二〇一六年）

『赤狩り旋風と映画』（立正法学論集）第四十八巻二号、二〇一五年）

『アメリカの黒人問題と裁判映画』（立正法学論集）第四十七巻二号、二〇一四年）

『アメリカの企業裁判映画』（立正法学論集）第四

十五巻二号、二〇一二年）

『レイプ告発映画』（立正法学論集）創立三十周年記念論集、二〇一二年）

『アメリカの軍事裁判映画』（立正法学論集）第四十四巻二号、二〇一一年）

『アメリカ映画の刑事収容施設』（立正大学法制研究所研究年報）第十五号、二〇一〇年）

『アメリカ映画の法廷劇』（立正法学論集）第四十三巻二号、二〇一〇年）

『日陰者ジュード』の世間』（立正法学論集第三十八巻二号、二〇〇五年）

『広告文化論——日米の広告比較に向けて——』（立正法学論集）第三十五巻二号、二〇〇二年）

『変身物語について』（立正法学論集）第三十四巻第二号、二〇〇一年）

『絵』と『眺め』の対比——E・M・フォースター『眺めのいい部屋』（立正法学論集）創立二十周年記念論集、二〇〇一年）

『W・ゴールディング「特命全権公使」』（立正法学論集）第三十三巻三・四号、二〇〇〇年）

「ウィリアム・ゴールディング『クロンク クロ
ク』」(立正法学論集)第三十二巻三・四号、一九九
九年)

「日米の新聞コラム」(立正法学論集)第三十一巻
三・四号、一九九八年)

「ウィリアム・ゴールディング『二枚舌』」(立正法
学論集)第三十巻一・四号、一九九七年)

「バーナード・マラマッド『修理屋』」(立正法学論
集)第二十九巻一・二号、一九九六年)

「物語について」(立正大学教養部『紀要』第二十
八号、一九九六年)

「ウィリアム・ゴールディング『紙人間』」(立正大
学教養部論集『ロータス』第二十八号、一九九四年)

「W・ゴールディングの『可視の闇』」(立正大学教
養部『紀要』第二十七号、一九九三年)

「W・ゴールディングの『ピラミッド』」(立正大学
教養部『紀要』第二十六号、一九九二年)

「W・ゴールディング『尖塔』」(立正大学教養部
『紀要』第二十五号、一九九二年)

「W・ゴールディングの『自由な転落』」(立正大学

教養部『紀要』第二十三号、一九九〇年)

「B・マラマッド『ファイデルマンの絵』」(跡見学
園女子大学英文学会『跡見英文学』第三号、一九九〇
年)

「ウィリアム・ゴールディングの『ピンチャー・マ
ーティン』」(跡見学園女子大学英文学会『跡見英文
学』第二号、一九八九年)

「W・ゴールディング『後継者たち』の視点」(早稲
田大学英語英文学会『英語英文学叢誌』第十七号、一
九八七年)

「バーナード・マラマッドの『神の恩寵』」(立正大
学教養部『紀要』第二十号、一九八七年)

「B・マラマッド『神の恩寵』——背景・状況設定・
登場者について——」(『ほらいずん』会『ほらいず
ん』第十九号、一九八七年)

「W・ゴールディングの『蠅の王』」(立正大学教養
部『紀要』第十八号、一九八五年)

「『アレクサンドリア四重奏』——鏡と構想——」(立
正大学教養部『紀要』第十五号、一九八二年)

「道化・鏡・影」(『ほらいずん』会『ほらいずん』

第十四号、一九八一年)

「『ドリアン・グレイの画像』の鏡」(立正大学教養部『紀要』第十四号、一九八一年)

「『アレクサンドリア四重奏』——その神秘的世界上について——」(「ほらいずん」会『ほらいずん』第十二号、一九七九年)

「ローレンス・ダレル『アレクサンドリア四重奏』——「相対性原理の導入」をめぐって——」(「ポイエーシス」同人会『ポイエーシス』第三号、一九七八年)

(5) 「バーナード・マラマッド『アシスタント』」(早稲田大学英文学会『英文学』第四十号、一九七四年)

エッセイ

「戦後日本のコミック、アニメ、映画における宮崎駿の位置」(“The Position of Hayao Miyazaki in the Post - War Japanese Comics, Animation and Movies”) (立正大学法制研究所「研究年報」第九号、二〇〇四年)

「勤勉と怠惰について」(「立正法学論集」第三十二卷一・二号、一九九八年)

「折々の記 (“Some Reflections from My Diary”)」(立正大学法制研究所「研究年報」創刊号、一九九六年)

「変身について」(立正大学教養部『ロータス』第二十七号、一九九四年)

「われ目醒めたるやそれとも眠りたるや?——夢について——」(立正大学教養部『LOTUS』第二十六号、一九九四年)

「現実について」(跡見学園女子大学英文学会『跡見英文学』第四号、一九九一年)

(6) テキスト

『父親時代』(Fatherhood by Bill Cosby) (松柏社、一九八七年)